

## 総合診療科（1）

この文章をお読みになっているということは、おそらく「総合診療」という今最も注目されているといつても過言ではない分野に興味を持たれている方なのでしょう。しかし、お気を付けください。総合診療と一口に言っても、病院ごとに診療体制や研修内容は大きく異なります。それがまず他科での専門研修との大きな違いであり、場合によっては理想とはかけ離れた研修をすることになる可能性もあります。

そのような事態に陥らないために、まず貴方が思い描く総合診療医がどのような医師か明確にする必要があります。難しい疾患を華麗に診断する医師、HIVや輸入感染症などを含めて幅広い感染症診療にあたる医師、膠原病の診断や治療を行う医師、他科からのコンサルトを受け専門家と協力して診療にあたる医師、マルチプロブレムを抱えた患者さんを適切に治療する医師、家庭環境や介護状況などを踏まえて退院後の生活まで見通して診療にあたる医師。ザッと挙げるだけでも多くの総合診療科医の形があり、まだ決められないという方も多いのではないでしょうか。

でもご安心ください。驚くべきことに当科で研修を行うと上に挙げたすべての形の総合診療科医になることができます。当院は救急外来受診患者数約4万人（うち救急車9000台）と日本有数の急性期病院であるため、毎日救急外来から多くの患者さんが当科に入院されます。同時に、不明熱や関節痛などを主訴に当科外来を受診され、精査加療目的に入院になる患者さんも多くおられます。これは当院に膠原病内科がなく、当科で膠原病の診断・治療にあたっているからこそ実現できていることです。総合診療に力を入れていても、膠原病内科が別にある病院では、不明熱や関節痛を主訴に受診される患者さん数が半減してしまいます。そのため診断学を学ぶ機会が少なくなってしまうのです。また、輸入感染症やHIV関連疾患も数多く診療にあたることができます。専攻医一年目から外来を任されるため数多くの疾患を診ることができることも魅力の一つだと思います（当科の某専攻医が主治医として1年間で担当した症例が当科ブログに掲載されているので、参考にしてください）。 <http://kccgim.exblog.jp/22327019/>

ここまで当科での専門研修の魅力をつらつらと語ってきましたが、自分がこの病院の総合診療科を選んだ一番の理由は何と言っても上級医の先生方の人柄の良さです。これは文章では伝えることができないため、是非一度見学に来ていただき、雰囲気を肌で感じてもらえたたらと思います。この文章をここまで読んでくださった心優しい方と一緒に働く日を楽しみにしています。